

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 6 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25284034

研究課題名(和文) 現代日本映画と日本文学との相関研究 戦後から1970年代までを中心に

研究課題名(英文) Studies in Correlation between Modern Japanese Movie and Literature: From the After War Period to the 1970s

研究代表者

中村 三春(Nakamura, Miharuru)

北海道大学・文学研究科・教授

研究者番号：80164341

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間中、研究協力者も招いた共同研究会7回、海外(パリ)における国際ワークショップ1回、学会(日本近代文学会)パネル発表1回、公開シンポジウム1回、計10回の研究イベントを予定通り実施し、その結果を多数の研究論文として発表した。また研究成果の集大成として、すべての研究分担者と研究協力者も執筆して、共著論文集単行本『映画と文学 交響する想像力』(森話社、2016)を刊行した。

これらの研究活動により、研究目的とした、日本映画(アニメーションを含む)が日本文学との間でいかなる相互関係を結んだかを多面的に探究し、日本映画及び日本文学の意味・意義・価値を新たな方法論によって究明することができた。

研究成果の概要(英文)：During the research term, we held 7 times joint meetings, one international workshop (in Paris), one panel discussion in Japanese Modern Literature Society, one public symposium. We achieved all of the scheduled plan with research cooperators.

We published a book of joint work. CINEMA AND LITERATURE: THE SYMPHONY OF IMAGINATION is a collection of academic papers. It is a compilation of our researches. All the researcher writes each paper in this book.

Through these activities, we completed our research on the correlation between modern Japanese movie and literature and its significance and values by means of the new methodology.

研究分野：日本文学・比較文学・表象文化論

キーワード：映画と文学 日本映画史 日本現代文学 日本アニメーション史 表象文化論

1. 研究開始当初の背景

映画館入館者数が11億人を突破し(1958年)、日本映画が黄金時代を迎えていた1950年代の10年間において、2,000作に近い日本映画が日本文学を原作としていた。日本映画の中核を担ってきたのは日本文学の映画化であったと言っても過言ではない。だが、日本映画及び日本文学の研究において、従来このことが正面から問題とされたことはなかった。本研究は、戦後から1970年代までの時期における日本映画と日本文学の関連について、その成立・作品・享受の様相に即し、映画・映像分析の手法を身につけた日本文学研究者と、文学・文献研究の技術をもつ映画史研究者とを糾合した共同研究として解明しようとしたものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本映画が史上最も活況を呈した戦後～1950年代から、1970年代の再編製の時期までに、日本映画(アニメーションを含む)が日本文学との間でいかなる相互関係を結んだかを多面的に探究し、日本映画及び日本文学の意味・意義・価値を新たな方法論によって究明することにある。研究方法としては、基本的な資料調査と解題・データベース化を行いつつ、1)映画・文学関連の理論面、2)映画・文学関連の媒体・資料・文献面、また3)映画・文学の作家間の協働面に関する研究を総合する。それらの集約にあたっては、時代社会を背景とした映画史的及び文化史的な観点を導入し、映画と文学の高次元の意味と機能を解明する。さらに今後、対象年代を前後に拡張して、総合的な日本近代表象文化研究へと発展させる基礎を構築する。

3. 研究の方法

(1) ①戦後から1970年代までの日本映画と日本文学との相互関係を、東京・関西・海外等の関連資料の調査によって網羅的に解明し一覧化する。②該当映画作品を可能な限り検証し、分析・検討の上、詳細な解題・注釈を施す。③これを冊子化・データベース化して公開する。④これを基礎とし、組織的な研究体制を組み、映画・文学間の関連を1)理論的、2)媒体に即して実証的に究明すると同時に、3)映画人と文学者との協働と交渉の実態をも解明し、それらを集約して総合的な文化史研究の観点から日本映画史を再構築する。⑤札幌・東京・京都・松本において研究会を開催し、研究協力者の参加も得て研究を拡充し普及を図る。⑥現今の国際的研究状況に鑑み、中国・韓国・台湾・アメリカなどで調査・研究発表を行い、研究交流と普及に努める。⑦研究成果は公開シンポジウムを開催し、論文集を作成して普及を図り、他の研究者とも共有する。

(2) 研究体制 本研究の対象は分野と年代が広く多岐に亘るため、組織的・系統的な研究

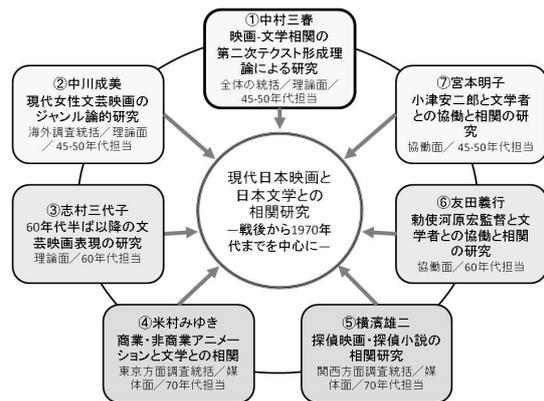
体制を採る。各研究者は各自の研究課題の外、次の役割を分担し、全体を研究代表者が統括する。

A) 日本の映画・文学関連の資料調査統括(東京・関西・海外の3方面)

B) 主な研究分野(次の3部門)

- 1) 映画・文学関連の理論的な研究
- 2) 映画・文学関連に関わる媒体・資料・文献を中心とした研究
- 3) 映画製作者と文芸作家間の協働の研究

C) 年代(45-50年代、60年代、70年代の3区分)



4. 研究成果

(1) 総括 研究体制に掲げた映画・文学関連の理論面の研究、映画・文学関連の作家間の協働面の研究、映画・文学関連の媒体・資料・文献面の研究について、ほぼ計画通りの研究を遂行することができた。各種文献に基づいて、戦後から1970年代までの文芸映画の基礎的一覧を作成し、それに基づいて各研究メンバーが所期の研究分担を遂行した。共同研究としては、国内(札幌・東京・京都・長野・神戸)における共同研究会(7回)、パリにおける国際ワークショップ、日本近代文学会大会におけるパネル発表、さらに成果発表公開シンポジウムを開催し、研究成果を公開して検討を行った。個々の研究メンバーも、国内外での学会・研究会・シンポジウムへの参加、国内外における映画・文学関係の資料館・図書館等における調査などを、概ね達成している。

(2) 国際ワークショップの開催 2014年10月25日、パリ日本文化会館において、ワークショップ「川端康成作品の映画化をめぐる」を開催し、4題の研究発表を行い、その後パリの研究者を交えて討論を行った。

(3) 学会パネル発表 2015年10月25日、金沢大学で開催された日本近代文学会秋季大会において、「日本映画と日本近代文学とのコラボレーションー戦後から七〇年代までー」と題するパネル発表を行った。中村三春による基調報告の後、中村三春、宮本明子、志村三代子、横濱雄二が各報告を行い、参加者との間で意見交換を行った。

(4)公開シンポジウムの開催 2015年12月5日、最終的な成果発表として、キャンパス・イノベーションセンター東京において、公開シンポジウム「《交響する》現代日本における映画と文学」を開催した。発表の後、ディスカッサントを交えて討論を行った。

(5)共著論文集の刊行 2016年3月25日、これまでの研究成果の集大成として、共著『映画と文学 交響する想像力』(中村三春編、森話社)を刊行した。

(6)データベース作成 戦後から1970年代に至る日本文芸映画のデータベースを完成した。

(7)Web 発信 研究会のブログを作成し、Twitterも活用して情報の発信を行った。

(8)今後の展望 映画と文学との関連研究については、海外の映画・文学など外国文化との交流・影響関係が重要となる。今後は、その方向性が展望される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計22件)

①宮本明子、はじまりとしての『晩春』、『ユリイカ』、48(3)、2016、100-108、査読無

②中村三春、映画から折り返す『或る女』、『層：映像と表現』、8、2015、109-124、査読無

③中川成美、Ageism in sexuality:Women's gender struggle in literature and film、PAJLS、13、2015、239-247、査読無

④米村みゆき、海外文献紹介：高畑勲あるいは宮崎駿(キム・ジュニアン著『イメージの帝国日本列島上のアニメーション』)その3、『専修国文』、2015、37-50、査読無

⑤米村みゆき、海外文献紹介：高畑勲あるいは宮崎駿(キム・ジュニアン著『イメージの帝国日本列島上のアニメーション』)その2、『専修国文』、97、2015、33-39、査読無

⑥志村三代子、『羅生門』から『ゴジラ』へ—輸出映画のホープを目指して—、『日本映画の海外進出 文化戦略の歴史』、森話社、2015、204-223

⑦志村三代子、彷徨する復員兵—黒澤映画のなかの〈幽霊〉を中心に、『怪異・妖怪文化の伝統と創造—ウチとソトの視点から』、国際日本文化研究センター、2015、219-231、査読無

⑧志村三代子、追悼・白坂依志夫(インタビュー・構成)、映画学、28、2015、68-85、査

読無

⑨横濱雄二、ミステリとライトノベル—谷川流『涼宮ハルヒの憂鬱』シリーズにおける物語世界の構成、『日本サブカルチャーを読む 銀河鉄道の夜から AKB48 まで』、北海道大学出版会、2015、223-249、査読無

⑩中村三春、異郷としての現在—小林秀雄「故郷を失った文学」を起点として—、層：映像と表現、7、2014、91-107、査読無

⑪中村三春、擬古典化(アルカイズム)と前衛性：篠田正浩監督の映画『心中天網島』、『文学』、15(6)、2014、20-36、査読無

⑫中村三春、太宰治『新ハムレット』の「愛は言葉だ」：パラドキシカル・デカダンス2、『季刊 iichiko』、122、2014、107-127、査読無

⑬中川成美、林芙美子の詩的精神：抒情の発見、『現代詩手帖』、4. 巻、57(4)、2014、78-82、査読無

⑭米村みゆき、海外文献紹介：高畑勲あるいは宮崎駿(キム・ジュニアン著『イメージの帝国日本列島上のアニメーション』)、『専修国文』、94、2014、119-146、査読無

⑮米村みゆき、「絵空事」として考えることの幸福—一九八〇年代アニメーションにみえる地球への郷愁とアニメ・ファンダム—、『昭和文学研究』、68、2014、52-63、査読無

⑯米村みゆき、ジャパニメーションの表情とその内面(2)—キム・ジュニアン著『イメージの帝国：日本列島上のアニメーション』より—、『アニメーション研究』、15-2、2014、35-42、査読無

⑰志村三代子、文士の有名税：メディアとしての菊池寛、『文学』、15(3)、2014、69-86、査読無

⑱横濱雄二、金田一耕助の片岡千恵蔵 占領期日本における二つの映画化作品をめぐって、『文学』、15(6)、2014、67-80、査読無

⑲友田義行、地下茎状の原作：安部公房「友達」論、『文学』、15(6)、2014、49-66、査読無

⑳宮本明子、震災以後の「異郷」、『日本語日本文学』、41、2014、134-149、査読無

㉑宮本明子、「小津的なユーモア」をめぐって：映画と文学、次世代人文社会研究、10、2014、89-104、査読無

②宮本明子、「おじさん」の系譜—『彼岸花』から『秋刀魚の味』そして『青春放課後』まで—、『ユリイカ』、2013、211-222、査読無

〔学会発表〕(計57件)

①宮本明子、Face Covering: Tokihiko Okada in Ozu's Early 1930s Films、Society for Cinema and Media Studies 2016 Conference、2016年3月30日、ヒルトンホテルアトランタ(アメリカ)

②宮本明子、フィルム・アーカイブの現在、第19回Image Processing Tokyo、2016年1月25日、東京工業大学大岡山キャンパス(東京都目黒区)

③志村三代子、Yagyū Etsuko, Cinematic Costume Designer: On the Creation of "Vibrant Toho Style /Branding、Society for Cinema and Media Studies、2016年3月30日、ヒルトンホテルアトランタ(アメリカ)

④米村みゆき、飛行を実現するテクノロジー—宮崎駿のアニメーションにおける想像力—、国際交流基金、北京日本学センター招聘講演、2016年3月23日、湖南大学(中国)、四川外国語大学(中国)

⑤中川成美、Who Can Define "Women's Literary Cinema"? Where Literature and Film Meet、ベルリン自由大学シンポジウムTEXT AND FILM IN INTERACTION、2016年2月25日、ベルリン自由大学(ドイツ)

⑥中川成美、Nature as a Problematic Concept in Japanese Literature: Looking、ベネチア大学国際学会、2015年3月18日、ベネチア大学(イタリア)

⑦中村三春、今井正監督『夜の鼓』と原作・近松の『堀川波鼓』、第7回現代日本〈映画-文学〉相関研究会、2015年7月4日、北海道大学(北海道札幌市)

⑧中村三春、今井正と戦後の文芸映画—『青い山脈』から『にごりえ』まで—、2015年度日本近代文学会秋季大会、2015年10月25日、金沢大学(石川県金沢市)

⑨中村三春、意想外なものの権利—今井正監督の文芸映画—、公開シンポジウム「《交響する》現代日本における映画と文学」、2015年12月5日、キャンパスイノベーションセンター東京(東京都港区)

⑩中川成美、Edogawa Rampo et les effets visuels: actualités et influences du pionnier du roman policier japonais、パリ第7大学講演会、2015年5月5日

パリ第7大学(フランス)

⑪中川成美、Comics and Animation as Literature? Imagination of Modern Visuality、第7回国際学術会議コミコロジー:理論と実践を絡み合わせる新、2015年9月27日、京都精華大学(京都府京都市)

⑫中川成美、「女性文芸映画」という問題系—文学と映画の会う場所—、公開シンポジウム「《交響する》現代日本における映画と文学」、2015年12月5日、キャンパスイノベーションセンター東京(東京都港区)

⑬米村みゆき、享受による再現化—ジュール・ヴェルヌから宮崎駿へ—、公開シンポジウム「《交響する》現代日本における映画と文学」、2015年12月5日、キャンパスイノベーションセンター東京(東京都港区)

⑭米村みゆき、旧満州における宮沢賢治と関連領域の受容状況について、第四回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム、2015年8月27日、延辺大学(中国)

⑮米村みゆき、宮崎駿の映画舞台と視聴者の想像力、第二回中・日・韓比較文化研究国際学術シンポジウム、2015年10月18日、瀋陽航空航天大学(中国)

⑯米村みゆき、「アニメ」をめぐる研究状況—漫画という〈原作〉—、第7回現代日本〈映画-文学〉相関研究会、2015年7月4日、北海道大学(北海道札幌市)

⑰志村三代子、映画のなかの〈浅草〉、公開シンポジウム「《交響する》現代日本における映画と文学」、2015年12月5日、キャンパスイノベーションセンター東京(東京都港区)

⑱志村三代子、文芸映画における川端康成作品の位置づけ『古都』(1963・1980)を中心に、2015年度日本近代文学会秋季大会、2015年10月25日、金沢大学(石川県金沢市)、

⑲志村三代子、『伊豆の踊子』をめぐるメディア・ミックス—いかにして国民的映画となりえたのか—、第7回現代日本〈映画-文学〉相関研究会、2015年7月4日、北海道大学(北海道札幌市)

⑳横濱雄二、過去の残響:金田一耕助映画とノスタルジアの視線、公開シンポジウム「《交響する》現代日本における映画と文学」、2015年12月5日、キャンパスイノベーションセンター東京(東京都港区)

㉑横濱雄二、野村芳太郎監督『八つ墓村』と

その周辺、2015年度日本近代文学会秋季大会、2015年10月25日、金沢大学(石川県金沢市)

②横濱雄二、『獄門島』『砂の器』と昭和ノスタルジア、第7回現代日本〈映画-文学〉相關研究会、2015年7月4日、北海道大学(北海道札幌市)

③友田義行、文学と映画の交響から残響へ—安部公房と勅使河原宏—、公開シンポジウム「《交響する》現代日本における映画と文学」、2015年12月5日、キャンパスイノベーションセンター東京(東京都港区)

④友田義行、勅使河原宏監督『サマー・ソルジャー』試論：安部公房の残響、第7回現代日本〈映画-文学〉相關研究会、2015年7月4日、北海道大学(北海道札幌市)

⑤宮本明子、『宗方姉妹』における娘の「演技」と「投げる」こと、公開シンポジウム「《交響する》現代日本における映画と文学」、2015年12月5日、キャンパスイノベーションセンター東京(東京都港区)

⑥宮本明子、〈演出者〉としての里見弴—『早春』を手がかりに—、2015年度日本近代文学会秋季大会、2015年10月25日、金沢大学(石川県金沢市)

⑦宮本明子、娘たちと「投げる」こと：小津安二郎後期作品における翻案と様式化、表象文化論学会第10回研究発表集会、2015年11月7日、東京大学駒場キャンパス(東京都目黒区)

⑧宮本明子、映画に見る〈同窓会〉、第217回日本橋フォーラム、2015年9月28日、キャンパスイノベーションセンター東京(東京都港区)

⑨宮本明子、里見とんによる映画の〈脚色〉・〈演出〉、第7回現代日本〈映画-文学〉相關研究会、2015年7月4日、北海道大学(北海道札幌市)

⑩中村三春、映画から折り返す『或る女』、第3回現代日本〈映画-文学〉相關研究会、2014年3月8日、北海道大学(札幌市)

⑪中川成美、The End of Women's Literary Film: Naruse Mikio's Hourouki(1962) and Imamura Shohei's Nippon Konchuki(1963)、ベネツィア大学国際シンポジウム、2014年3月17日、ハーバード大学(アメリカ)

⑫中村三春、アルカイズムと前衛性—篠田正浩監督の『心中天網島』—、第4回現代日本〈映画-文学〉相關研究会、2014年6月

29日、信州大学教育学部(長野県長野市)

⑬中村三春、川端文学と映画の特性—『雪国』を中心として—、国際ワークショップ「川端康成作品の映画化をめぐる」、2014年10月25日、パリ日本文化会館(フランス)

⑭中川成美、市川崑監督『こころ』におけるクイアな欲望について、Soseki Diversity、2014年4月20日、ミシガン大学(アメリカ)

⑮米村みゆき、How Are 'Transfer Children' Represented? Focusing on Clothes in Animation Film of Studio Ghibli, The 2014 Conference for the Society for Cinema & Media Studies、2014年10月10日、シアトル(アメリカ)

⑯米村みゆき、カレル・ゼマンと宮崎駿、第5回現代日本〈映画-文学〉相關研究会、2014年9月10日、北海道大学(北海道札幌市)

⑰米村みゆき、名作アニメとしての脚色をめぐる—「伊豆の踊り子」を対象に—、国際ワークショップ「川端康成作品の映画化をめぐる」、2014年10月25日、パリ日本文化会館(フランス)

⑱志村三代子、ゴジラ、アメリカに上陸—反戦・原子力のアナロジーからアメリカの文化的アイコンへ—、第4回現代日本〈映画-文学〉相關研究会、2014年6月29日、信州大学教育学部(長野県長野市)

⑲志村三代子、ふたつの『千羽鶴』—アダプテーションとリメイクをめぐる—、国際ワークショップ「川端康成作品の映画化をめぐる」、2014年10月25日、パリ日本文化会館(フランス)

⑳横濱雄二、1970年代の『獄門島』映像化作品について、第4回現代日本〈映画-文学〉相關研究会、2014年6月29日、信州大学教育学部(長野県長野市)

㉑横濱雄二、市川崑の金田一耕助映画とディスカバー・ジャパン、第5回地域コンテンツ研究会、2014年8月30日、北海道大学(北海道札幌市)

㉒横濱雄二、1970年代の『犬神家の一族』映像化作品について、第6回現代日本〈映画-文学〉相關研究会、2014年12月20日、甲南女子大学(兵庫県神戸市)

㉓友田義行、ジャンルと国境の横断：安部公房『闖入者』『友達』について、第4回現代日本〈映画-文学〉相關研究会、2014年6月29日、信州大学教育学部(長野県長野市)

④友田義行、『闇入者』から複数の『友達』へ：安部公房の小説・戯曲・映画をめぐって、占領開拓期文化研究会、2014年8月31日、立命館大学（京都府京都市）

⑤友田義行、安部公房原作映画『友達』試論、第5回 現代日本〈映画-文学〉相関研究会、2014年9月10日、北海道大学（北海道札幌市）

⑥宮本明子、後期小津映画と原作をめぐって、第4回 現代日本〈映画-文学〉相関研究会、2014年6月29日、信州大学教育学部（長野県長野市）

⑦宮本明子、脚色の方法：「有難う」の映画化をめぐって、国際ワークショップ「川端康成作品の映画化をめぐって」、2014年10月25日、パリ日本文化会館（フランス）

⑧宮本明子、後期小津映画と『宗方姉妹』、第6回 現代日本〈映画-文学〉相関研究会、2014年12月20日、甲南女子大学（兵庫県神戸市）

⑨志村三代子、「太陽族映画」を再考する、第3回 現代日本〈映画-文学〉相関研究会、2014年3月8日、北海道大学（札幌市）

⑩志村三代子、Hanae Mori: the pioneer in the field of the costume design in the post war Japanese cinema、The 2014 Conference for the Society for Cinema & Media Studies、2014年3月22日、シアトル（アメリカ）

⑪友田義行、『1日240時間』と安部公房・勅使河原宏、記録映画アーカイブ・プロジェクト第12回ワークショップ、2014年3月1日、東京大学（東京都文京区）

⑫横濱雄二、1970年代の『本陣殺人事件』映像化作品について、第2回現代日本〈映画-文学〉相関研究会、2013年12月7日、立命館大学衣笠キャンパス（京都府京都市）

⑬志村三代子、大学という異界—『偽大学生』（1960）における齟齬をめぐって—、2013年度輔仁大学日本語文学科国際シンポジウム、2013年11月16日、新北市（台湾）

⑭宮本明子、震災以後の「異郷」—映画『東京家族』（2013）に描かれたもの—、2013年度輔仁大学日本語文学科国際シンポジウム、2013年11月16日、新北市（台湾）

⑮志村三代子、彷徨する復員兵—黒澤映画のなかの〈幽霊〉を中心に—、日文研第45回国際研究集会、2013年11月27日、国際日本文化研究センター（京都府京都市）

⑯友田義行、The tradition of film and literature at the 1970 Osaka Exposition :or the genesis of film and automobiles, Tradition in the Japanese cinema、国際シンポジウム Tradition in the Japanese cinema 2013、2013年10月19日、ストラスブール（フランス）

⑰志村三代子、コメディエンス・高峰秀子と『グッドバイ』、第1回現代日本〈映画-文学〉相関研究会、2013年6月22日、北海道大学東京オフィス（東京都千代田区）

〔図書〕（計3件）

①中村三春・中川成美・米村みゆき・志村三代子・横濱雄二・友田義行・宮本明子、森話社、『映画と文学 交響する想像力』、2016、334

②中村三春、ひつじ書房、『フィクションの機構2（未発選書23）』、2015、412

③志村三代子、『映画人 菊池寛』、藤原書店、2013、384

〔その他〕

ホームページ等

<http://cinema-literature.hatenablog.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中村 三春 (NAKAMURA, Miharū)
北海道大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：80164341

(2) 研究分担者

中川 成美 (NAKAGAWA, Shigemi)
立命館大学・文学部・教授
研究者番号：70198034

志村 三代子 (SHIMURA, Miyoko)
都留文科大学・文学部・准教授
研究者番号：20409733

米村 みゆき (YONEMURA, Miyuki)
専修大学・文学部・教授
研究者番号：80351758

横濱 雄二 (YOKOHAMA, Yuji)
甲南女子大学・文学部・准教授
研究者番号：40582705

友田 義行 (TOMODA, Yoshiyuki)
信州大学・教育学部・助教
研究者番号：40516803

宮本 明子 (MIYAMOTO, Akiko)
東京工業大学・環境・社会理工学院・助教
研究者番号：60633419